

試験種	土地家屋調査士	講座名	なぜか点数につながらない，その理由をお話します スペシャル特訓コース		講座
編		編	科目		森本
回数		回	講師名	森本 修平	

テープコード

— — .

[配布物] 有・無

	コード	名称
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		

[講義予定]

1. 点数につながらないのは理由がある。
2. 基礎を固めて，理解する。
3. 過去問を学習して，敵を知る。
4. 答練に全力を傾け，体力，気力を養う。

[特記事項]

最新情報はLECホームページでご案内しています。
<http://www.lec-jp.com> 受講相談も受け付けています。
 ©2011 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan



CU12133

1. 点数につながらないのは理由がある。

「勉強はしているのに、点数が伸びない。」

受験生にとっては深刻すぎる悩みです。当然、10点を20点にする労力と60点を70点にする労力は違うでしょう。しかし、点数が伸びない理由は他にもあります。

その主な理由は、

<理由.1> 基礎が固まっていない。

<理由.2> 過去問をおろそかにしている。

<理由.3> 答練から逃げている。

どうでしょうか？

では、結論です。

「えっ、もう結論ですか？」

はい、結論からお出迎えです。

点数を伸ばすためには、

<結論.1> 基礎を固めて、理解する。

<結論.2> 過去問を学習して、敵を知る。

<結論.3> 答練に全力を傾け、体力、気力を養う。

これで、合格者に生まれ変わることができます。

そして、重要なのは、その手段です。

その手段として、**<スペシャル特訓コース>**をご紹介します。

テーブルコード

--	--	--

2. 基礎を固めて、理解する。

電卓をご用意ください。次の問題を解いてください。制限時間は1分30秒です。どうぞ。
(問題)

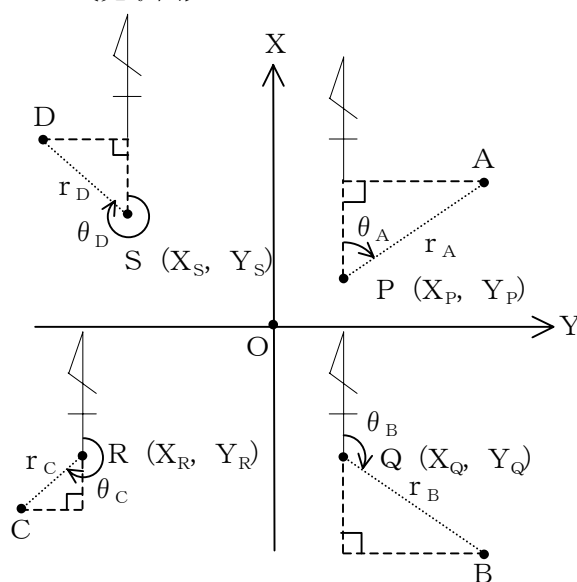
見取図についての調査及び測量成果が下記のとおりであるときの、A～Dの各点の座標値を計算して求めなさい。ただし、座標値及び距離の単位はメートルである。また、計算結果は、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで記載すること。

[調査及び測量成果]

点名	X座標	Y座標
P	5.00	7.00
Q	-10.10	7.00
R	-10.10	-13.39
S	10.32	-9.17

- P→Aの距離 = 20.00
- P→Aの方向角 = 60°
- Q→Bの距離 = 15.30
- Q→Bの方向角 = 120° 50'
- R→Cの距離 = 15.55
- R→Cの方向角 = 233° 07' 48.37"
- S→Dの距離 = 13.26
- S→Dの方向角 = 337° 22' 48.49"

[見取図]



A点の座標値

X座標	Y座標

B点の座標値

X座標	Y座標

C点の座標値

X座標	Y座標

D点の座標値

X座標	Y座標

テープコード

--	--	--

(解答)

A点の座標値

X座標	Y座標
15.00m	24.32m

$$X_A = 5.00 + 20.00 \times \cos 60^\circ = 15.00$$

$$Y_A = 7.00 + 20.00 \times \sin 60^\circ \approx 24.32$$

B点の座標値

X座標	Y座標
-17.94m	20.14m

$$X_B = -10.10 + 15.30 \times \cos 120^\circ 50' \approx -17.94$$

$$Y_B = 7.00 + 15.30 \times \sin 120^\circ 50' \approx 20.14$$

C点の座標値

X座標	Y座標
-19.43m	-25.83m

$$X_C = -10.10 + 15.55 \times \cos 233^\circ 07' 48.37''$$

$$\approx -19.43$$

$$Y_C = -13.39 + 15.55 \times \sin 233^\circ 07' 48.37''$$

$$\approx -25.83$$

D点の座標値

X座標	Y座標
22.56m	-14.27m

$$X_D = 10.32 + 13.26 \times \cos 337^\circ 22' 48.49''$$

$$\approx 22.56$$

$$Y_D = -9.17 + 13.26 \times \sin 337^\circ 22' 48.49''$$

$$\approx -14.27$$

余裕でできた方には、次の質問です。

【質問】

なぜ、X座標は cos を使い、Y座標は sin を使うのでしょうか？

この質問に、はっきり答えられない方は三角比を完全には理解していません。つまり、求積で応用問題や未出題の問題が出た時に、あたふたしてしまう方です。この問題はほとんどの方ができます。当たり前のできるもので、ついつい基礎を忘れてしまっているのです。

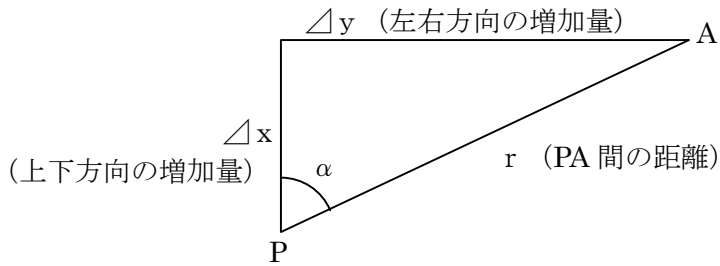
では、思い出してみましよう。放射点計算の故郷は三角比です。三角比の基礎が理解できれば、セットバックの問題や隅切りの計算も三角比の応用で求めることができます。

ヒントは次のページの図です。図形に関する定理、公式は図を見て覚えるのが一番いい方法です。シンプルな定理、公式ほど応用する場面は多いのです。

テープコード

--	--	--

<ヒント>



$$\cos \alpha = \frac{\Delta x}{r} \quad \sin \alpha = \frac{\Delta y}{r} \text{ です。これが、三角比のスタートです。}$$

これを式変形したのが

$$\Delta x = r \times \cos \alpha \quad \Delta y = r \times \sin \alpha \text{ です。}$$

つまり、基礎を固めるとはこういう意味なのです。当たり前に使っていた公式をもう一度原点に戻り、理解することです。なぜなら、どんな場面でも応用が利くようにするためなのです。もちろん、択一も同様です。

そのサポートをする講座が<登竜門編>です。

スペシャル特訓コースのスタートは基礎固め<登竜門編>からです。

では、基礎が固まったら次にすることは、過去問を解くことです。基礎が固まったあなたには、今までよく分からなかった内容も理解できるはずです。

テープコード

--	--	--

Memo

テーブルコード

--	--	--

3. 過去問を学習して、敵を知る。

過去問を解いてみましょう。制限時間は30秒です。

(問題)

次のアからコまでのうち、**登記をすることができる建物として取り扱うことができないものは幾つあるか。**

- ア 給水タンク
 - イ ガード下を利用して築造した倉庫
 - ウ 地下停車場
 - エ 停車場の乗降場のうち、上屋を有する部分
 - オ 機械上に建設した建造物であって、地上に基脚を有するもの
 - カ 農耕用の温床施設であって、半永久的な建造物であるもの
 - キ 野球場の観覧席のうち、屋根を有する部分
 - ク 容易に運搬することができる入場券売場
 - ケ 浮船を利用したものであって、固定しているもの
 - コ アーケード付街路であって、公衆用道路上に屋根覆いを施した部分
- 1 1個 2 2個 3 3個 4 4個 5 5個

解答は別のページに書くとして。この建物認定の問題は、過去に何度も問われているってご存知でしたか？ それだけに、多くの受験生はこのような問題は正解します。

ということは・・・。

過去に何度も問われている問題は**絶対に間違っ**てはいけない問題なのです。

本試験には過去何度も問われている絶対に間違っ

そのためにも、過去問の特訓は**欠かせません**。

それをサポートするのが、**<過去問ゼミナール><スーパー特訓講座 択一編>**です。

さらに、ただ、過去問を解くだけでは芸がありません。さらに+αをしようではありませんか。

次のページへどうぞ。

三角定規を用意してください。

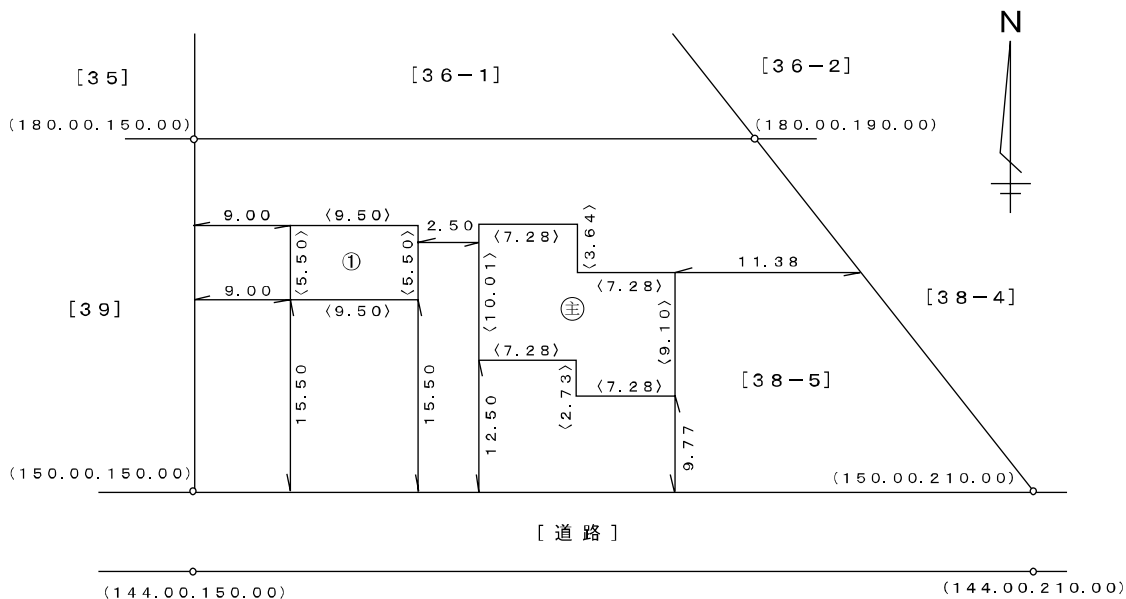
テープコード

--	--	--

(問題)

見取図の建物の各階平面図を作成せよ。ただし、作成の年月日、申請人の記名、作成者の署名（又は記名押印）、建物の所在、家屋番号、求積及びその方法並びに床面積の表示の記載を省略して差し支えない。
(制限時間 3分)

(見取図)



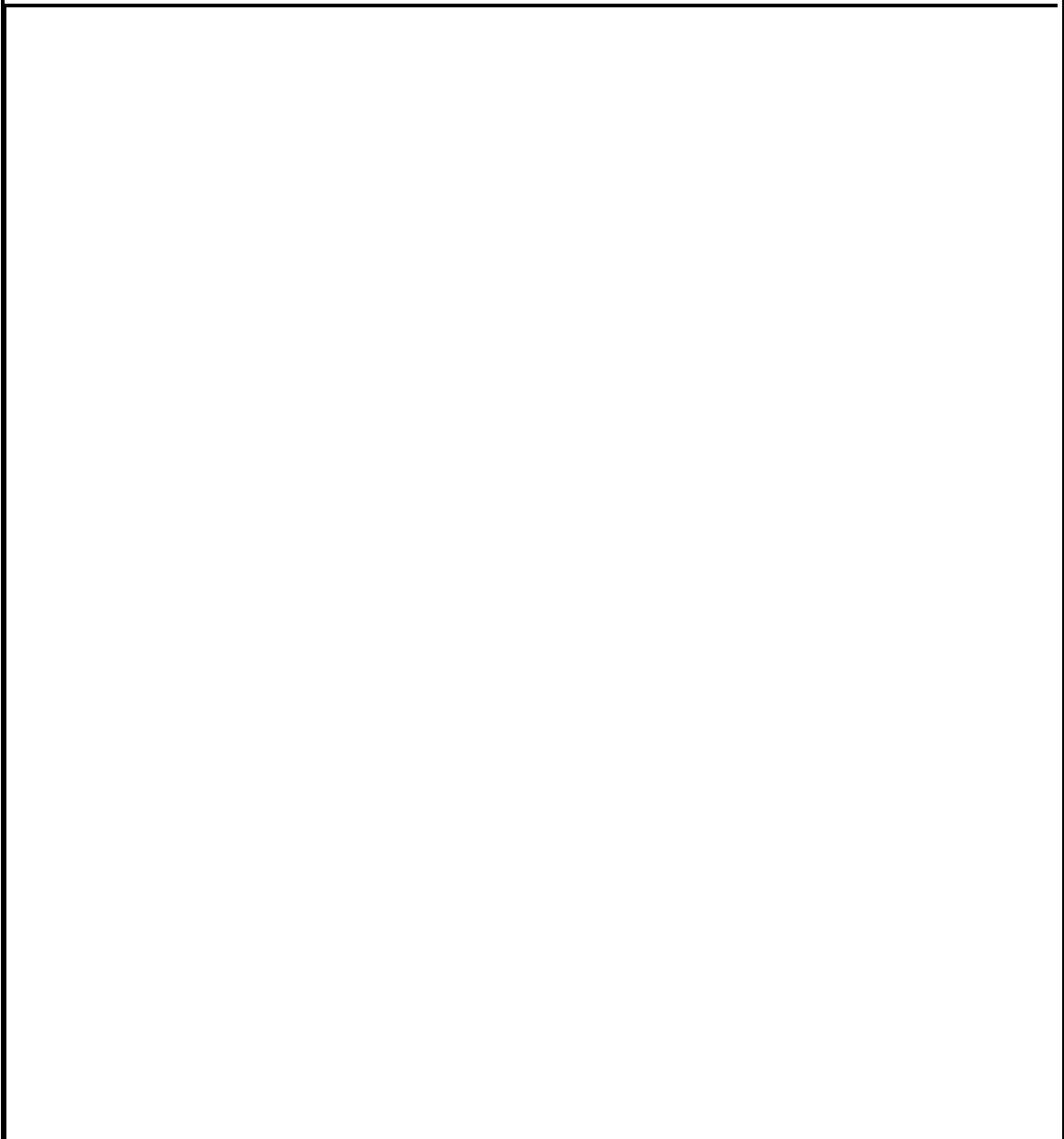
- (注)
1. 主である建物及び符号 1 附属建物は共に木造平家建である。
 2. 建物の測定値は、柱の中心線間の距離である。
 3. 見取図中の (主) は主である建物を (1) は符号 1 附属建物を表わす。

答案用紙は次のページです。

テープコード

--	--	--

各 階 平 面 図



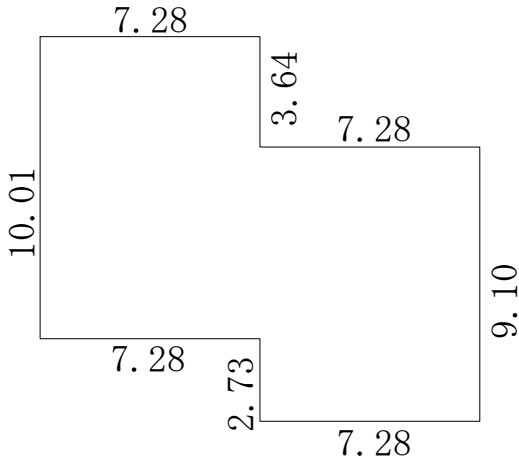
作成者	(略) (平成*年*月*日作成)	縮尺	1/250
-----	---------------------	----	-------

テープコード

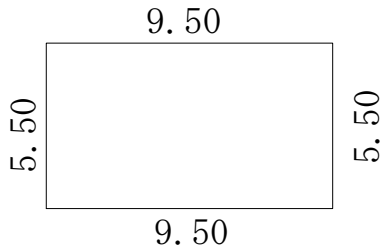
--	--	--

各階平面図

主である建物



符号1の附属建物



* 印刷の都合により、縮尺が正確でない場合があります。

作成者	(略) (平成*年*月*日作成)	縮尺	1/250
-----	---------------------	----	-------

テープコード

--	--	--

作図は描けるだけでは意味がありません。早く正確に書くことが大事なのです。

どうすればよいのでしょうか。そのヒントは<スーパー特訓講座>にあります。

過去問を使って、問題にどうアプローチするのか、求積の楽な方法、電卓の華麗な使用方法、三角定規の便利な使い方などなど、合格するためのアイテムが盛りだくさんです。

さあ、過去問の特訓もやりました。次は答練です。いよいよ、最終章です。

4. 答練に全力を傾け、体力、気力を養う。

せっかく実力を付けても、本番で発揮できなかつたら意味がありません。どうすればよいのでしょうか。

まずは、2時間30分の緊張に耐えうる**体力を養いましょう**。
つぎに、分からない問題は解けるところまで解く**気力を養いましょう**。

LECの答練は盛りだくさんです。

スタンダードマスター答練	5回
ハイグレードマスター答練	5回
直前ファイナル答練	8回
直前最終チェック模試	2回

合計20回

全ての答練を本試験と同じ気持ちで解くことで、体力、気力が養われ、さらに、復習することで見落としていた内容も再確認できます。

いかがだったでしょうか。<スペシャル特訓コース>であなたも合格者に生まれ変わってください。

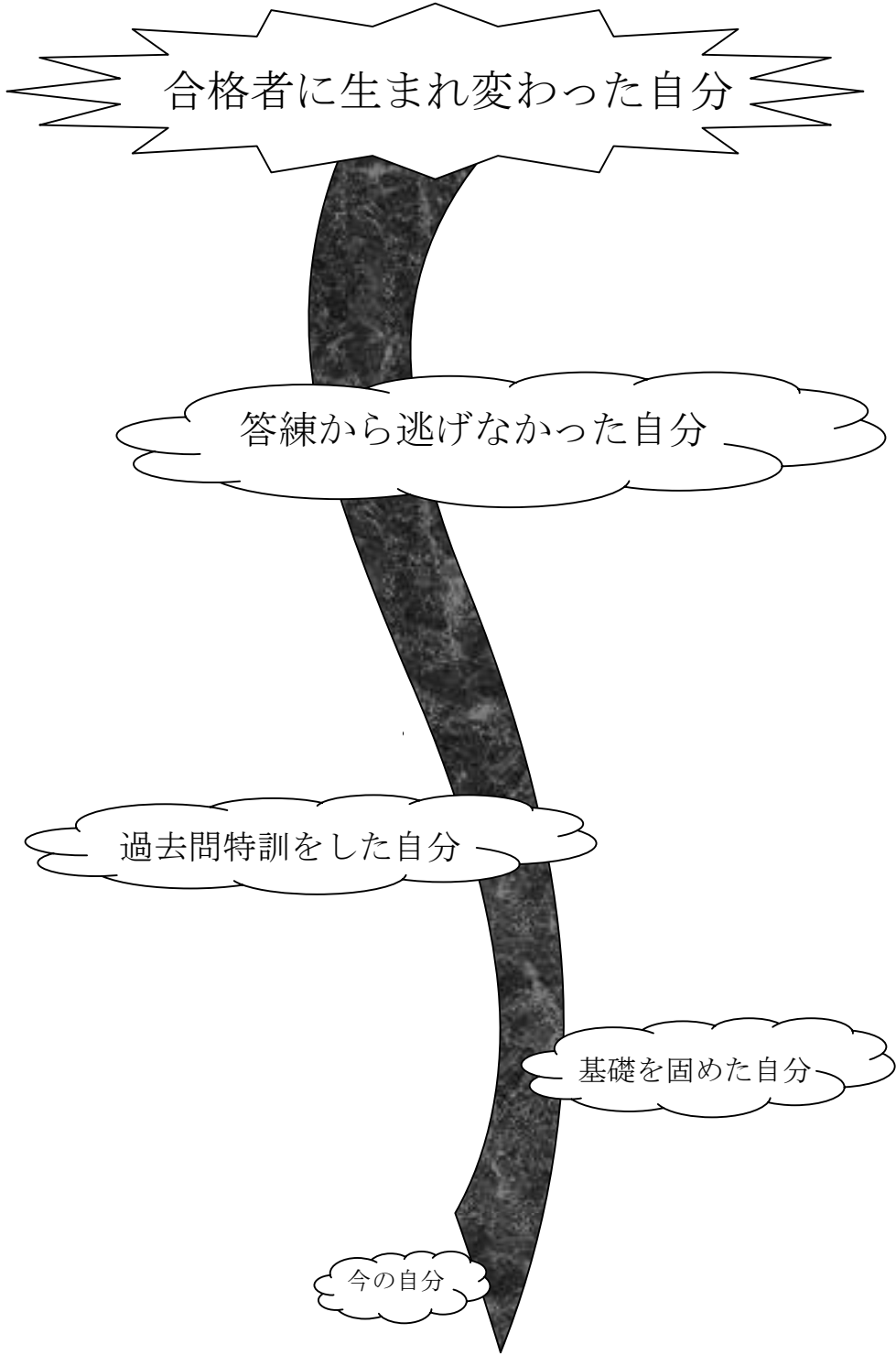
パンフレットの6ページをご覧ください。

p7の解答ア、ク、コの3つで、正解は**3**となる。

テープコード

--	--	--

<スペシャル特訓コース>の未来予想図



テープコード

--	--	--